

## 会 議 議 事 録

1 会議名	第2回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	令和7年2月13日（木曜日） 午後2時00分から午後4時00分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>（委員）※50音順、敬称略</p> <p>長岡西陵スポーツクラブ代表 石坂 陽之介          有限会社大島鉄工所専務取締役 大島 健          長岡商工会議所会頭 大原 興人          長岡技術科学大学国際産学連携機構 主任 UEA／特任講師 勝身 麻美          慶覚寺住職 ガーヴィー春龍          長岡医師会会長 草間 昭夫          有限会社ホープイン中沢代表取締役社長 駒野 亜由美          コンドウ印刷株式会社代表取締役 近藤 保子          株式会社サカタ製作所代表取締役社長 坂田 匠          長岡造形大学理事長 佐々木 順子          長岡技術科学大学教授 佐野 可寸志          たかの社会保険労務士事務所代表 高野 真規          社会福祉法人長岡三古老人福祉会理事長 田中 晋          長岡工業高等専門学校副校長 外山 茂浩          NPO 法人ふるさと未来創造堂常務理事 中野 雅嗣          公募委員 原 祥汰          新潟工科大学 教授 樋口 秀          株式会社第四北越銀行取締役会長 広川 和義          子育ての駅ながおか市民防災センター「ぐんぐん」 施設長 山岸 麻美          長岡市教育委員会事務評価委員会委員長 山田 修          FM ながおか企画営業部制作主任 山田 光枝          ながおか市民協働センター長 渡辺 美子          （長岡市）          産業政策監、地方創生推進部長 長谷川 亨          ミライエ長岡担当部長 五十嵐 正人          女性活躍推進担当部長 茂田井 裕子</p>

	DX 推進部長 新沢 達史 商工部長 西山 裕介 子ども未来部長 星野 麻美 政策企画課長 五十嵐 智行 政策企画課長補佐 早川 裕之 政策企画課係長 平野 絵里子 政策企画課係長 相川 良澄 政策企画課主査 浅野 望美 政策企画課主任 宮崎 駿
5 欠席者名	長岡市社会教育委員兼長岡市公民館運営審議会委員 黒崎 千賀子 山信織物株式会社取締役営業部長 西片 吉邦 公募委員 ヌル アデリン
6 議題	1. 長岡市の将来人口推計について【資料1】 2. 市民参加事業の主な意見について【資料2】 3. 次期総合計画の将来像・目標・政策の方向性について【資料3】 4. グループ討議（6グループ） 5. 全体討議
7 審議結果の概要	・ 次期長岡市総合計画の策定に向けた現総合計画の課題分析、人口の将来推計、将来像について説明 ・ 6グループに分かれ、「人口の将来推計について」「次期長岡市総合計画の将来像・目標・政策の方向性について」の2テーマでグループ討議を実施 ・ グループ討議の意見を踏まえた全体討議を実施 ・ 将来人口推計及び将来像について、本委員会の意見を踏まえ、後日正副委員長と修正案について協議を行う
8 審議の内容	
産業政策監 （地方創生推進部長）	本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。これより、第2回長岡市総合計画策定委員会を開催いたします。進行を務めます、長岡市産業政策監、地方創生推進部長の長谷川と申します。どうぞよろしくお願いたします。 本日は議事内容を説明した後、グループ討議と全体討議を実施いたします。 黒崎委員、西片委員、ヌルアデリン委員がご欠席です。 はじめに、委員長より挨拶申し上げます。

委員長

本日は第2回目の策定委員会になりますが、市民アンケートやインタビューなどの結果を説明するとともに、長岡市の将来の人口目標や次期総合計画の基本構想となる将来像、目標、視点などについて、どういうふうを考えればいいか、みなさまから意見を頂戴したいと思います。

産業政策監  
(地方創生推進部長)

本日もご欠席の委員も含め、全委員のみなさまへ資料について事前にご説明と意見交換を行いました。ご要望のあったアンケートのクロス集計は鋭意進めており、まとまり次第、3月中にお示しする予定です。本日は、追加資料を中心にご説明させていただきます。

第1回策定委員会のグループ討議でのご議論で、現状分析についてご議論いただきました。人口減少を前提に、どれだけ減少を緩和できるか、サービスを維持しつつ幸福度をあげられるか、医療体制・福祉・公共サービスのコミュニティをいかに維持できるかという意見が多数あがりました。

続いて、市議会議員と将来像について意見交換をさせていただきました。いただいた意見は、かなり評価が分かれました。具体的には、「将来像が一目では分かりにくく説明を聞かなければ分からない」という意見や、「人らしく生き、新しい価値」とは何を意味するのか、という意見があがりました。また、「人が人らしくという視点は素晴らしく、この視点は評価できるが、縮小するだけでなく夢を描ける計画、子育て日本一など明るい意見も設けるべき」という意見も出ました。

また、策定委員のみなさまとの事前の意見交換においても様々な意見をいただいております。

人口推計のうち、人口の自然増減、社会増減について、差し引き人数差ではなく、出生数、死亡数、転入数、転出数と対比して推移が分かるようにすべきとのご指摘がありましたので、対応する資料を本日もご用意しております。ご確認ください。

また、現行の総合計画、総合戦略をしっかりと評価すべきというご意見を商工会議所含め多数いただいております。そこで、現行の総合計画の評価と課題分析という資料をご用意しました。ご覧ください。

現在の計画は10年間の計画で、基本構想という位置づけなので、具体的施策や数値はないものでした。同時に総合戦略が走っており、6つの戦略に対して定性目標と数値目標を設定していました。今回は11の数値をお示ししており、赤字は直近の実績となっています。③と⑥は当初目標を達成したので上方修正しています。

社会増減、自然増減の状況について。社会増減について、転出超過数は566人、特に若年数が556人。転出理由は職業が最も多く、4割を超えて

います。自然増減について合計特殊出生率は1.37で県と比べるとやや高いが、上昇には至っていない状況です。婚姻数の減少や未婚化、晩婚化が影響していると考えています。特に注意すべきは、出生数の低減。2020年1,631人が2023年1,436人、直近は1,300人台となっています。死亡数の増減は3,475人が3,952人と、自然減が拡大している傾向で、直近では人口減少が約3,000人となっています。

こうしたことがどうして起きているか根本的な要因分析を箇条書きで示しました。雇用の問題が影響している可能性があります。若者や女性が求める職種、働き方が地域に足りないのではないかと、首都圏と比較して平均月収で大きな賃金格差がある、根強いジェンダーギャップ、古い価値観や政治経済界で女性の台頭が立ち遅れていると分析しています。

次の計画に向けた総括として、人口減少対策と、市民のウェルビーイングの実現の2本を大きな柱としたいと考えています。特に人口減少については、要因分析に対応した施策を重点的に取り組む必要があります。ウェルビーイングについては、社会課題に対応した施策を実施する必要があると考えています。これらの実行力を高めるために、前回総合戦略で11の指標だったが、一挙10倍くらいの指標を入れて、毎年の市民アンケートで達成度を測っていきたいと考えています。具体的には、根本的な要因となっている、若年層の転出超過と市内就職率を入れるほか、起業件数、地域未来けん引企業の承認件数、担い手農家割合、等を抜本的に増やし、KPIを設定し、それに基づく政策を実施していきたいと考えています。

今日ご議論いただきたいのは、人口の将来推計では2点ございます。1つ目は、進む人口減少の要因について、みなさんの視点で深掘りの意見交換をしていただきたいです、2つ目は、人口の将来展望の現状の継続推計をいかに上昇させるかについて、現総合戦略の推計値までは難しいと思うが、少なくとも社人研の推計を超えて出生率1.5を目指していきたいと考えており、これについてみなさまの考えを伺い、この数値を固め、政策に反映したいと思えます。

将来像では、今までの延長線上の計画ではなく、新しさや10年後のビジョンを感じられるもの、長岡の独自性を強く出していくことが大事だと考えています。生ぬるい、という意見もいただいているところです。一方、もっと短くコンパクトに、市民に伝わりやすい将来像にしてはどうか、表現がまわりくどいという意見もいただいています。事務局として、現在の案のままでお願いしたいという気持ちはないので、みなさまとの議論をふまえ、真に必要な将来像を設定していきたいと考えております。

委員長	なにか質問はありますか。
委員	6つの基本目標について、基本目標自体は変わらないままで話を進めるべきか、まったく無視して進めて良いか、どちらでしょうか。
産業政策監 (地方創生推進部長)	まだ将来像も固まっておらず、基本目標も固まってない状況なので、表現含めてご意見いただきたい。
委員長	<p>これよりグループ討議を始めていきます。人口推計と次期総合計画について、よろしく願いいたします。</p> <p><b>【グループごとに意見交換】</b></p>
委員長	<p>それでは時間となりましたのでグループ討議を終了してください。</p> <p>グループごとに出されたご意見については、休憩をはさみ、全員で議論したいと思います。</p> <p>この全体討議で策定委員委員会として、何らかの方向性を出したいと考えていますので、御協力をお願いします。</p> <p><b>【10分休憩】</b></p>
委員長	<p>時間となりましたので、「全体討議」に入ります。皆さんからの意見を受け、策定委員会としての方向性を出したいと思います。</p> <p>まず、資料1の「長岡市の将来人口推計について」検討します。グループから出された意見について、事務局から報告をお願いします。</p>
政策企画課長	<p>グループ討議のみなさんの意見を抽出してまとめた資料をお配りしています。単純に赤いラインがいいのか悪いのかではなく、人口減少の要因を深掘りいただきたいというご意見をいただきました。また、現状の出生率1.37を1.5まで引き延ばし、社会減をゼロにもっていくことで赤いラインに押し上げていくことを標榜しているが、出生率1.5を目指せるだろうかというご意見をいただきました。</p> <p>ウェルビーイングの実現により人口減少が抑制されるのでは、という意見もいただいています。なぜ人口減になるかという、子どもを育てるにはお金が必要ということ。ウェルビーイングを感じながら働くことで人口減</p>

を抑制できる、という示唆をいただきました。

理想通りプラスには向いていかないだろう、ゆるやかな減少を目標にしていくなどが現実路線ではないか、という意見もいただいています。要因分析にもありましたが、出ていく人がいれば入ってくる人もいる中で、その現状分析をすべきではないか、ダイバーシティのまちなど、尖った目標、方向性を打ち出すことが必要ではというご意見や、リモートワークする外国人の転入など、転入をいかに多くするかというご意見をいただきました。

少子化について、子育て中の母親たちをプッシュする政策が必要ではないかというご意見をいただきました。

総数で明確な数値目標を設置するよりも、分析をして、ポイントを絞っていくべきではないかというご意見をいただきました。

第2回ではある程度の方向性を出すにあたり、論点の整理をしたいと考えています。原案通りで良いという意見について、数字必達ではないが、目指す目標としては赤い線（より高い）を目指した方が、赤い線は高い目標として認識しているが、10年間としてはそこを目指すことが大事、というご意見をいただきました。人口が下がるのは当然だが、何らかの目安は必要なので、消極的肯定派の意見だと捉えています。

注力する分野を絞っていくことで、結果として数字がついてくる、人口減がゆるやかになるのではないかというご意見をいただきました。グループ討議で、明確な数字を設定すべきという意見はありませんでした。

市民の意識を変えていくことも必要。人口減少の緩和をしつつ、取り組むべきではないかというご意見や、18万人と20万人はどう違うのかについて、税収が下がる、交付税が少なくなる、など、分析がないなら、どうしていくべきという方策は出てこないのではないかというご意見をいただきました。

委員長

ご意見がある方はいらっしゃいますか。これ事務局としては方向性をまとめていけそうでしょうか。

政策企画課長

委員長、副委員長含めてある程度の方向性を考えて、委員のみなさまにお示ししたいと思います。

委員長

続きまして、「次期総合計画の将来像等について」事務局から報告をお願いします。

グループ討議で、現状の将来像案で素晴らしいというご意見はなかったように感じます。冒頭に長谷川からご意見聞きながら固めたいとお伝えしていたので、忌憚ない意見をいただけて感謝しています。

「人が人らしく～」 「悠久都市」 は分かりづらいという意見が多かったです。言葉が抽象的すぎて何をしたいか分からない、変革の意図を感じない、現状維持の印象を受けるというご意見がありました。

「AI 時代」 も引っかかっている方が多かったように思います。人間らしい社会を目指すなら AI 時代という言葉を使わなくて良いのでは、というご意見や、AI 時代というキーワードは 10 年後には当たり前になっているのではないかとご意見もいただきました。

全体的に、曖昧で具体性がないというご意見が多かったです。

「変われ長岡、全部長岡」というご提案をいただきました。変革していかないといけない、という姿勢を端的にお示しいただきました。

もっと長岡の良さが伝わる言葉が良いが、総花的すぎて、なにに力点を置いているか分からないというご意見が多くありました。もう少しポイントを絞り、長岡がどこに力を入れるべきか分かる方がいいのではというご意見かと思えます。

女性活躍と書くことは必要か、という点について、あえて書くべきというご意見や、書くとできていないことを表すため、書かなくてもいいのではというご意見と、どちらもありました。

産業部分にはイノベーションの視点をもっと入れてほしい、基本目標には数値を入れてほしいというご意見がありました。

「長岡モデル」がよく分からないというご意見がありました。

女性の視点のほか、若者や子供の視点も必要ではないかというご意見がありました。

総合指標に人口減少をゆるやかに、とあるが、これは結果なのでは。指標ではないのではというご意見がありました。

長岡はコンパクトシティになれる、効率化も大事。支所地域の若者がいなくても中央の余力でカバーすることが必要。予算とは違う観点でできることを効率化するが、大事なものを守ることができるというご意見がありました。

原案通りで良い、という意見はありませんでした。見直しが必要という認識をしています。込めた思いはいいが、言葉選びが微妙、今の言葉は 10 年後の計画ではなく、今すぐやるべきではというご意見がありました。説明してもらおうと理解できたが、6 つの基本目標と 5 つの視点のつながりが分からない、5 つの視点は横串を刺すと説明いただいたが、基本目標と

5つの視点の違いが分かりづらいというご意見がありました。

将来像と基本目標どちらも言葉が曖昧でぼやけている、長岡らしさを感じる明確なメッセージ性や、力点を絞った表現がいいのでは、というご意見を多くいただいたと捉えています。

委員長

それでは、事務局からの報告を受け、ご意見がある方はご発言ください。

委員

人口減少に対して、出生率を上げる方法だけではなく、人を呼んでくる方法もあります。リモートワークが増えている中で、どこでも仕事ができるなら長岡でもいいのではないかと、インセンティブを出す方法もあるのではないのでしょうか。その際、言語やビザがハードルとなります。たとえば、福岡にはスタートアップビザというプログラムを10年前に始めています。起業やリモートワーカー向けの6か月のビザを発行し、具体的な支援策を出し、空き家を改修して6か月無料で提供するなどして、外国人起業者を引っ張っています。長岡でやるなら、ビジョンとして、日本一英語力が強いまちを目指してはどうでしょうか。英語力が高まれば、外国人に対応でき、受け入れるハードルが下がるのではないのでしょうか。

委員

ウェルビーイングの研究をしているのですが、欧米と日本でウェルビーイングの考え方は全く違います。日本では、外と自分が強く結びついており、会社で嫌なことがあると自分たちの人生も嫌になってしまいますが、欧米では、いくら会社が嫌でもプライベートが充実しているとウェルビーイングと感じる。海外と日本では考え方が違うことが一つです。

そこで長岡が目指すべきは「余裕」ではないのでしょうか。これから海外から外国人人材が入ってくると考えたときに、まったく違う意見の方が入ってくると、私たちに余裕が無かったらさらにウェルビーイングが下がってしまいます。人口減少を解消するために外から招き入れることは必要だと思うが、我々のウェルビーイングの担保は難しいと思います。

余裕がある生活ができるように、長岡市は変えていかないといけないと思います。そもそも長岡が魅力的ではないと海外から人は来ません。絶対に海外から人が来てくれるという考えはなくすべきです。自分たちも、ウェルビーイングは何を指すかを考えおくべきではないのでしょうか。

委員

余裕というお話について、長岡を選んで来てもらうこと、余裕をいかにつくるかという点について、キーワードは多様性だと考えます。ウェルビーイングを実現するためには多様性。みんな多様性という言葉は知ってい

るが、多様性の本質はみんな知らないのではないのでしょうか。相手の考えや文化を認め合い一緒に何かしていくことが大事だと思いますし、分かり、認め合い、一緒にできるには、さまざまな壁になっていること、お互いを理解し、学び合うことが大事です。子供だけに限らず、ウェルビーイングの多様性を学び続けられるまち、という言葉が入ったら良いのではないのでしょうか。

副委員長

このようなグループインタビューをして、策定委員会の場をつくり、将来像を決め、基本目標を決め、KPIを決める、というプロセスは素晴らしいと思います。

全体的に躍動感が無く、まったりとした、総花的な内容になっているように感じます。今のところ、わくわくする、人を引き付ける長岡市にするぞ、という動きを感じません。ぜひ、もっと長岡らしさを伸ばしていくぞ、というのを尖らせていくことが大事だと思います。

人口の絶対数にこだわるのは結果なので、それを目標に置くのは違うのではないのでしょうか。どうやって人を引き付けるのか、転入を増やすとしても、女性、若者、外国人など、因数分解をすることで施策がつけられるのではないのでしょうか。

定住人口以外の通り過ぎる人の数を増やすことも大事だと思います。リスキリング、リモートワーク、学生、観光など。行き来をする長岡市、というビジョンを作っていけたら良いのではないのでしょうか。

長岡に住んで4年目になりますが、長岡の方々は控えめ、マーケティング下手、謙虚でいらっしゃる。もっとグイグイと、長岡らしさを突き詰めて尖らせていけたら人を呼べるようになるのではないのでしょうか。

副委員長

2回参加させていただいたが、この議論を成案に持つていくには道のりが遠いと感じています。今日の資料で現行の総合計画の評価と課題分析をしてもらいましたが、やはり出発点として、長岡の課題認識をして、この部分を克服してウェルビーイングのまちにするというようなプロセスになるのではないかと思います。今考えている総合計画は、今の総合計画の延長線上にある。現状分析をしっかりした上で議論を進めていかないと収集がつかなくなる状態が続く懸念があります。今さらながら現状分析と言われても市の方は困る部分もあるかと思いますが、まず出発点はそこにあるべきではないかと感じました。

将来像は新計画の方向性を示すもので非常に重要です。あまりハイカラ・抽象的な言葉ではなく、この10年間で我々はやるんだぜ、というよ

	<p>うな、気持ちがこもった将来像にして、そのために基本目標やKPIがある、という構成にする必要ではないでしょうか。長岡市民が将来像を読んだときに、最大公約数的に納得してもらえそうな将来像をつくっていく必要があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>いまの将来像は長くて、5秒後には忘れてしまうと思います。以前の総合計画の「前より前へ」は、キャッチーでビビットな言葉は市民でも覚えている人が多いです。そこでグループ討議で出てきたのが樋口委員ご提案の「変われ、長岡」。市民が市役所に、市役所から市民に、一人ひとり変わっていかないといけないと、主語を変えて使えるのではないかと思います。自分も参加して変わる、行政も変わっていくという気概を見せることにつながると思います。「変わるれ」もタイプミスだと思うが、長岡らしい言葉で良いと思います。副題が入ってもいいが、ビビッドな言葉が入ると、市民のみなさんに認知してもらえないのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>委員長が「変わっていかないと」とおっしゃっていたのを受けて思いついたのが「変われ、長岡」です。もうひとつ、旧市町村ごとに分ける必要はないと思っています。いつまでたっても分離しているように思います。今までオール長岡という話もあったようだが、全部長岡で良いのでは、長岡のいいところを全部込めて一体となれたらいいのではということで「変われ長岡、全部長岡」とさせていただきました。</p>
委員	<p>第3回に向けてのお願いとして、次期計画は2025年問題と2040年問題のど真ん中に位置する計画だと思います。日本で少子高齢化が深刻化している中で、長岡には病院が3つあり、地域の福祉も行き届いており、世界のモデル都市になれる可能性を秘めていると思います。世界が目指すべき福祉都市としての地位を10年で確立できると良いのではないのでしょうか。10年かけて世界のトップを目指す余地はあると思います。</p>
委員	<p>会議の時間をもう少し伸ばしてもよいのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>感想を一言述べさせていただきますと、将来像の言葉がこれでいいという意見にならなくて良かったと思います。もう少し10年先にチャレンジしていく気持ちが大事だと思っています。そういった方向にまともれば良いと思います。</p>

産業政策監  
(地方創生推  
進部長)

本日はありがとうございました。私どもも覚悟をもって臨みたいと思  
います。

次回は5月22日(木)14時から2時間半程度を予定しています。次  
回は計画の骨子を議題としますので、今日まとめたものを決めたのちに、  
もう一段ブラッシュアップしていきたいと思ます。

総合計画に位置付ける長岡市全体の土地利用構想についての説明もさ  
せていただきます。この土地利用構想については先行してご専門の委員に  
ご説明させていただいてから、意見交換をしていきたいと思ます。

次回は具体的な施策をお示しすることを予定しており、専門分野ごとの  
グループディスカッションを予定しています。

本日のご意見は議事録として公表させていただく予定です。委員の方  
には事前にご確認をお願いします。

これをもって第2回策定委員会を閉会とさせていただきます。

9 会議資料

別添のとおり